

令和 元年 5 月 15 日現在

機関番号：51303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K01721

研究課題名（和文）タグラグビーの競技性に着目したゲーム様相分析

研究課題名（英文）Game analysis about Tag Rugby

研究代表者

兼村 裕介（Kanemura, Yusuke）

仙台高等専門学校・総合科学系・准教授

研究者番号：30555280

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：小学生対象に開催されているタグラグビー全国大会（サントリーカップ）のゲーム分析を行った。全国大会上位チームと下位チームには防御の戦術、スキルに差があり、上位進出を狙うチームは、守備力を向上させなければいけないことが分かった。また、ゲーム分析や大会中の映像を元に、大会の安全性や競技性を検討した場合、現行のルールでは、若干の問題点があると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によってラグビーの導入スポーツとして行われている「タグラグビー」の競技的特長の一部が明らかになったと考えられる。このことにより、「タグラグビー」と「ラグビー」の違いが明らかになり、選手がラグビーへ移行するときの問題点の一部がわかった。また、「タグラグビー」のスポーツとしての発展や安全性の向上に寄与することができたと考えられる。

研究成果の概要（英文）：I made an analysis of games of U-12 Tag Rugby Suntory Cup a national Tag Rugby meet. I think that the defense skill of top 8 team and lower-ranking team. If a team aims at top 8 position, it will be necessary for the team to try to improve their defense skill. I also examined this game's safety and competition, and I notice that the current regulations have some problems.

研究分野：ラグビーのゲーム分析

キーワード：タグラグビー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

タグラグビーとは、1990年代初めにイングランドで考案されたラグビー競技の簡易型ゲームであり、身体接触を禁止している特長がある。日本ラグビーフットボール協会は、「タグラグビー」を若年層へのラグビー普及のツールとして紹介し、主に小学生を対象に普及を進めている。その一貫として、日本ラグビーフットボール協会は、2004年より小学生のタグラグビー全国大会を開催するようになった。現在では、予選を含め、全国で1万人以上の小学生が参加する大会となっている。競技性が高まっていく中で、ラグビーとは異なる技術や戦術が散見されるようになり、独自の進化を始めているタグラグビーについて、ゲーム分析を行い、プレーの特徴やルール上の問題点を明らかにすることができれば、今後のタグラグビーおよびラグビーの発展に寄与できると考えたのが、研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ラグビーフットボール(以下、ラグビー)の派生的ボールゲームとして普及が進んでいる「タグラグビー」のゲーム様相を分析、検証することである。小学生を対象に行われているタグラグビーのゲーム様相を詳細に分析することにより、タグラグビーの競技特性を明らかにできると考えている。競技特性を明らかにすることで、タグラグビーの戦術等の分類が可能となり、タグラグビーのコーチング研究の一助になると考えている。また、競技としてのルール上の問題点を抽出し、タグラグビーの競技的安定性を促すルール改正などを提案することが可能となり、タグラグビーの競技的普及と発展に貢献できると考えている。

3. 研究の方法

小学生タグラグビー全国大会である「サントリーカップ」の地方予選のゲームをビデオ撮影し、ゲーム分析ソフトを用いて、トライに至ったプレーを分類し、分析を行う。地方予選については最低2回の予選を撮影することとする。現段階では、宮城県(代表研究者所在地)、東北ブロック予選などを予定している。また、小学生タグラグビー全国大会でビデオ撮影を行い、地方予選同様に分析を行う。分析結果によるチーム戦術の特徴や、大会参加チーム全体にみられる傾向を分析する。攻撃の回数、突破成功の回数、などを集計しデータを数値化する。このことで各チームの攻撃特徴や、とられている戦術が明らかになると予測できる。そのデータに基づき、タグラグビーにおける攻撃方法の技術・戦術的な特徴を整理する。

4. 研究成果

タグラグビー全国大会のゲーム分析

平成28年度、平成29年度の「サントリーカップ全国小学生タグラグビー選手権大会」の決勝大会において撮影された試合映像をゲーム分析ソフト「SPROTS CODE」を使用してゲーム分析を行った。

(1) 大会上位チームと下位チームの違いについて

大会上位チーム(ベスト8以上)と下位チーム(それ以外)を比較したところ、上位チームは下位チームと比較して守備力が高いことがわかり、上記大会で上位に進出するためには、守備力を向上させることが重要であるといえた。平成28年度大会の上位チーム同士の対戦においての1試合の平均得点は、3.9点であるので、上位チームに勝利するためには、1試合の失点を3点以下に抑える必要があることが考えられる。

表1 上位同士対戦の攻撃終了内訳

年	攻撃回数	得点	TAG4	ミス	反則	時間
H28	292	79	82	87	24	20
	%	27.1	28.1	29.8	8.2	6.9
H29	78	26	20	15	11	6
	%	33.3	25.6	19.2	14.1	7.69

表2 上位対下位の攻撃終了内訳(下位チーム)

年	攻撃回数	得点	TAG4	ミス	反則	時間
H28	123	28	26	36	23	10
	%	22.8	21.1	29.3	18.7	8.1
H29	109	13	23	38	22	13
	%	11.9	21.1	34.7	20.2	11.9

表3 上位対下位の攻撃終了内訳(上位チーム)

年	攻撃回数	得点	TAG4	ミス	反則	時間
H28	122	69	12	26	7	8
	%	56.6	9.8	21.3	5.7	6.6
H29	103	76	11	10	5	1
	%	73.8	10.7	9.7	4.9	1.0

表4 下位同士対戦の攻撃終了内訳

年	攻撃回数	得点	TAG4	ミス	反則	時間
H28	345	131	58	98	34	24
	%	38.0	16.8	28.4	9.9	7.0
H29	261	90	43	82	28	18
	%	34.5	16.5	31.4	10.7	6.9

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

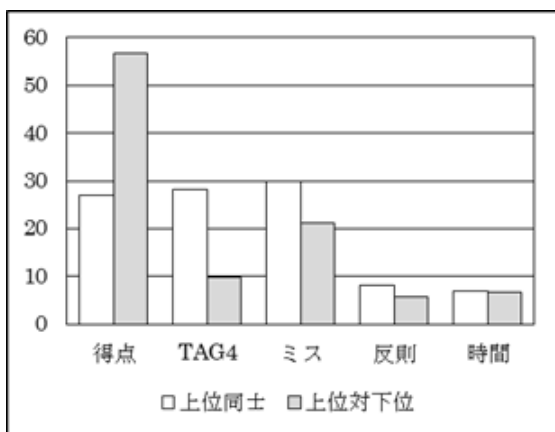


図1 平成28年度上位チーム対戦別攻撃内訳

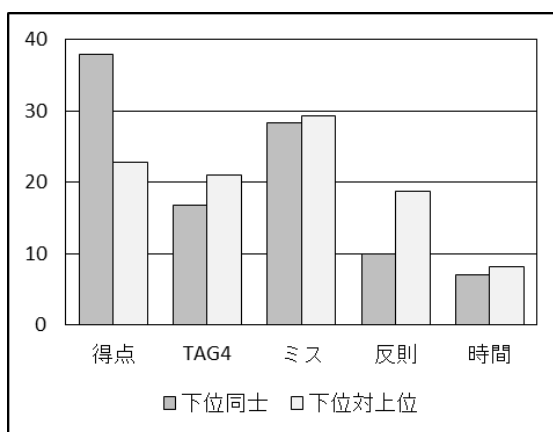


図2 平成28年度下位チーム対戦別攻撃内訳

(2) 攻撃方法の分析について

平成29年度(第14回)大会データの攻撃方法について、トライ獲得時の攻撃方法について分析を行ったところ、概ね7種類に分類できると考えられる。中でもトライにむすび付きやすい攻撃は、タテ、ダミーラン、サイドチェンジの3種類攻撃方法であるといえた。上位チームにおいては、与えられた4回の攻撃権を使い切ってトライを獲得できるチームが多い傾向があり、下位チームにおいては、1回のサインプレーによってラインブレイクして、トライを獲得する傾向にあるといえる。

表5 平成29年度第14回大会トライ獲得時の攻撃方法

攻撃方法	全体		上位		下位		攻撃方法	全体		上位		下位	
	数	%	数	%	数	%		数	%	数	%	数	%
タテ	37	18.0	27	26.5	10	9.7	ダミーラン	32	15.6	15	14.7	17	16.5
クロス	19	9.3	2	2.0	17	16.5	サイドチェンジ	38	18.5	22	21.6	16	15.5
クロスダミー	15	7.3	0	0.0	15	14.6	カウンター	28	13.7	20	19.6	8	7.8
ループ	19	9.3	7	6.9	12	11.7	その他	11	5.4	5	4.9	6	5.8
不明	6	2.9	4	3.9	2	1.9							

(3) ルール上の問題点について

ルール上の問題点として、ディフェンス時に守備側の選手間の幅を狭くした方が、攻撃側の反則「アタックチャージ」を誘発しやすくなっているため、守備の戦術として、選手間をわざと狭くする戦術が見受けられた。このことにより、もとは身体接触を禁止することで一定の安全性を担保しているラグビーにおいて、身体接触が発生してしまっている事態となっていることがわかった。競技性と安全性が現状ルールにおいてはせめぎあう状況となっていることを鑑みると、ルール変更等も検討したほうが良いと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

兼村 裕介、「小学生ラグビー全国大会のゲーム分析」、日本ラグビー学会学会誌、査読有、Vol.11、2018、9-15

兼村 裕介、「第13回、14回サントリーカップ全国小学生ラグビー選手権大会のゲーム分析」、日本ラグビー学会学会誌、査読有、Vol.12、2019、掲載予定

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：  
ローマ字氏名：  
所属研究機関名：  
部局名：  
職名：  
研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。